

Red Cross Kyoto

赤十字 きょうと 2020 12月号



©Atsushi Shibuya/JRCS

救うを託されている。

人間を救うのは、人間だ。



日本赤十字社 京都府支部
Japanese Red Cross Society

大切なことは、感染症を被災地に「持ち込まないこと」です。

interview

京都第一赤十字病院
第一救急科 部長

竹上 徹郎 先生

令和2年7月初旬、西日本から東日本にかけての広い範囲を猛烈な雨が襲いました。記録的な浸水深となった氾濫被害地域では目を疑う光景が広がり、新型コロナウイルス感染症への不安を抱える中での自然災害発生が現実のものとなりました。

甚大な被害を受けた熊本県人吉市に、京都からDMAT(災害派遣医療チーム)として派遣され、現地で指揮に当たった医師の竹上 徹郎 先生からお話を伺いました。コロナ禍における災害の現状をお届けします。

新型コロナウイルスや災害対応にご尽力頂きありがとうございます。先生は今回、コロナ禍で初めてのDMAT派遣として熊本県人吉市に赴かれましたが、出発前に特段注意を払ったことはありましたか？

―当時、第一波は収まっているとはいえ、緊急事態宣言後では初めての大きな災害であり、災害救護とコロナ対策の両立が求められる中での派遣でした。注意したことは、「持ち込まないこと」が一番大切であると考えていました。現場で感染を広げないこと。その為にいつも以上に感染対策を徹底しました。

それはどのような対策ですか？

―現地向かう前には、メンバー全員の体調の確認をしっかりとしました。また、到着後にも朝晩に健康観察を行いました。現地本部はもうろん、僕たちもそういった対応が必要だと考えていました。自分たちの健康観察をしっかりとしながら、行く前、行った後も継続しました。



©Atsushi Shibuya/JRCS

先からすると、他の方たちより安全であるという認識を持たれている印象を受けました。それと、現地を見て感じたのは、

防です。これまで、いくつかの災害派遣に出た経験から、感染予防の資機材が必要なのは分かっていたし、今回は特に注意しました。

派遣される前から覚悟されていたと思いますが、実際、現地に行くと、他府県のボランティアの受入がされていない状況を見て、どう思われましたか？

―コロナ禍で移動制限されていたので、他府県からのボランティア制限は仕方ないと思います。その分、チームとして自身の管理は厳しくすべきと考えました。病院で働いている職員が来ているので、その点に関しての意識は高く、受入

―それはありませんでした。来てくれてありがたいという反応でした。人吉市の保健所のサポートでも、災害に対する経験が無いとのことで、今までの知見を活かして支えられたと思っています。

現地に行かれた経験をふまえて、今後検討すべきと感じたことはありますか？

―今回の活動では、水害で亡くなった方が多かったため、この手のケアに対する要望が多く寄せられました。被災者のケアはもうろん、場合によっては救護班要員のケアもできるため、今後ますます重要になるのではないのでしょうか。救護班にこの手のケアチームを帯同させることが大切だと思います。

貴重なお話をありがとうございました。最後に、読者の皆さんにお伝えしたいことはありますか？

―今日お話をした活動は、赤十字を応援いただく全ての皆様により支えられています。これからもご支援の程、宜しくお願いします。

竹上先生、
お話を聞かせていただき
ありがとうございました！





感染対策がしっかりしていることでした。普段から、災害時はノロウイルス等について対策が取られています。今回はそれに加えて手洗いにも留意されており、僕が行った避難所では人の出入りも記録され、アルコール消毒が徹底されるなど、きっちりと対策されていました。

DMAIが出動するタイミング（発災当初）では、避難所の運営も始まったばかりだと思えますが、それでもきちんとした対策が行われていたんですね。

—その通りです。

僕たちは保健所のサポートとして活動しましたが、避難所からはアルコール等の衛生材料について要望があることが多かったです。また、コロナ対策として換気が行われることに伴い、虫やプライバシーへの対応物品を求める声も聞かれました。

現地において感染症に「うつらない、うつさない」ための精神的負担は大きかったですか？

—今回のメンバーはコロナの対応に関わっていた者が参加していたので、事前知識がありました。ただ、現地でコロナが発生していなかったもので、そこで発生するということは、即ち我々がコロナを持ち込んだということになります。そうならないよう自分自身に言い聞かせて対策を取りながら活動しました。

他府県からの救援に拒絶反応等はありませんでしたか？

感染防止に取り組んでいます！ コロナ禍の赤十字講習会

日本赤十字社では、国内における新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、赤十字救急法等の各種講習を実施しています。

受講人数の制限、参加者の健康チェックやアルコール消毒の実施等、感染予防に十分留意し、万全の体制で安心、安全に各種講習を受講いただけるよう実施します。ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

講習についてご質問のある方は、京都府支部 事業推進課 (075-541-9326) までお問い合わせください。

※状況により、講習会が中止になることがあります。



偏見や差別を温かいエールに変えよう！ 「人権のつどい」で赤十字病院の職員が講演

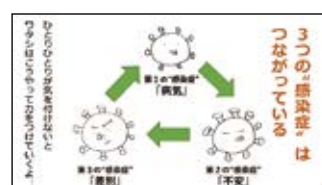
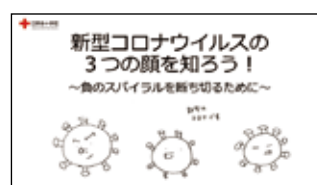
京都市北文化会館で北区「人権のつどい」が開かれ、京都第二赤十字病院 乾啓子 看護副部長が講演を行い、コロナ禍における医療の現状や、看護師が抱える葛藤を伝えました。

講演のなかで、多くの応援が病院に寄せられる一方、医療従事者に対する偏見や差別があることにも触れ、新型コロナウイルスに対する「不安」「恐怖」は誰もが持つ感情ですが、たたかうべきはウイルスであって人ではなく、心を寄せ合い、励まし合い、偏見や差別を温かいエールに変えましょう！と呼びかけました。



日本赤十字社では、新型コロナウイルスにより生まれる偏見や差別といった“負のスパイラル”断ち切るためのガイドブックを作成しています。内容は下記 URL、左記バーコードからご覧ください。

<http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/pdf/211841ae10ec4c3614a0f659d2f1e2037c5268c.pdf>



冬場の血液確保に ご協力をお願いします！

冬場は献血をする人が減るうえに、循環器や心臓疾患の手術が増えるなどして、輸血の需要が多くなるシーズンです。

新型コロナウイルスの感染拡大により予断を許さない状況が続く中、血液センターでは様々な予防策を講じ、献血にお越しいただいた方にとって安心安全な会場の運営ができるよう万全の対策を行っております。

輸血を必要とされている方を支えるためには、皆様のご協力が欠かせません。献血Web会員サービスサイト「ラブラッド」から献血の予約が可能ですので、これからも継続的なご協力の程よろしくお願いいたします。



献血 Web 会員サービスサイト「ラブラッド」は下記 URL、左記バーコードからご覧ください。
<https://www.kenketsu.jp/Login>

「海外たすけあい」にご協力頂き ありがとうございました

ご支援・ご協力をお願い

日本赤十字社では、日本放送協会(NHK)と協力して毎年12月1日から25日まで「海外たすけあい」キャンペーンを実施しています。これは、緊急災害はもとより、関心が集まりにくい途上国等の被災者の命と健康を守るための活動であり、1983年に1回目の活動を実施して以来、これまでに世界159カ国の人々へ支援を行っています。

今年も、京都市内での街頭募金をはじめとしたキャンペーンを展開しました。コロナ禍の中、温かいご支援を頂き誠にありがとうございました。

あなたのご支援が 赤十字の活動を支えています

赤十字では、皆様からお寄せいただいた資金を活用し、「いのちと健康を守る」ための様々な活動を展開しています。引き続き、皆様からの温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

●地域でのご寄付

赤十字奉仕団や町内会・自治会などを通じてご寄付いただいています。また、年間を通じて府内各市区町村の日赤窓口でもご寄付いただけます。

●口座振替によるご寄付

ご登録いただいた金融機関の口座から希望月に自動引き落としでご寄付いただく方法です。日本赤十字社ホームページの「寄付する」からお申し込みください。

●遺贈・相続財産等のご寄付

京都府支部では、遺贈(遺言によるご寄付)、相続財産等のご寄付を承っています。詳細については6ページ下欄のコラムをご覧ください。なお、ご不明な点については、当支部(075-541-9326)までお問い合わせください。

●寄付金付自動販売機の設置によるご寄付

自動販売機の売上げの一部をご寄付いただく方法です。設置に要する費用は全て販売会社が負担します。新規設置だけでなく、更新設置も可能です。詳細は当支部(上記と同じ)までお問い合わせください。

●クレジットカードによるご寄付

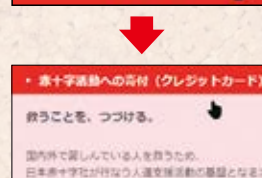
ご登録いただいたクレジットカードから、寄付回数を選択してご寄付いただく方法です。日本赤十字社ホームページの「寄付する」からお申し込みください。



<活動資金にご協力いただく際の流れ> (クレジットカードによるご寄付の場合)



①日本赤十字社ホームページ
(<http://www.jrc.or.jp/>)
にアクセスし、「寄付する」
ボタンをクリック



②「赤十字活動への寄付
(クレジットカード)」
をクリック



③寄付専用ページの
「寄付で赤十字を支援
する」をクリック



④「寄付申し込み入力
フォーム」に必要事項
を入力

活動資金へのご協力ありがとうございました

日本赤十字社京都府支部の活動は、皆様のご支援により支えられています。

令和2年4月から9月の間に、10万円以上のご寄付をいただき、掲載についてご了承いただいた会員の方々をご紹介します。

●北区

内田 昌一 様
川上 達也 様

●上京区

立原 貴代 様

●左京区

出竿 賢治 様

●中京区

株式会社 セレマ 様
玄海 外之 様

●東山区

三洋化成社会貢献財団 様

●下京区

株式会社ロマンズ小杉 様
比果産業 株式会社 様

●南区

久世 和可子 様
合同会社朝日システム 様
山口 孝司 様

●右京区

株式会社 浄美社 様

●伏見区

小西 和代 様
サムコ株式会社 様
辻 理 様

●宇治市

北後 豊子 様

●亀岡市

株式会社山口電設 様

●福知山市

天藤製薬株式会社 様

●宮津市

今井 一雄 様

●長岡京市

藤原 幸和 様

●木津川市

佐々木 礼子 様

●大山崎町

清水 淳子 様

●久御山町

五洋精工 株式会社 様

●精華町

株式会社 井上製作所 様

●香川県

有限会社 多田事務所 様

(地区町村順・五十音順)

日本赤十字社の活動資金にご協力いただいた場合、次の「税制上の優遇措置」や「表彰制度」の対象となります。



税制上の優遇措置（寄付金控除等）

赤十字の活動資金にご協力いただいた場合は、制度上の優遇措置が受けられます。

個人：確定申告をすることにより、所得税や住民税の控除が受けられます。
（その年の寄付金の合計額が 2,000 円以上必要です。）

法人：寄付金の額を損金に算入することができます。

表彰制度

【日本赤十字社の表彰】

区 分	基 準
銀色有功章	一時又は累計で、20万円以上50万円未満のご協力をいただいた個人・法人
金色有功章	一時又は累計で、50万円以上のご協力をいただいた個人・法人
日本赤十字社社長感謝状	金色有功章受章後、一時又は累計で、50万円以上のご協力をいただいた個人・法人



銀色有功章



金色有功章（個人）



社長感謝状



金色有功章（法人・団体）

【国の表彰】

区 分	基 準
厚生労働大臣感謝状	一時又は同一年度内に累計で、100万円以上500万円未満のご協力をいただいた個人、又は300万円以上1,000万円未満のご協力をいただいた法人等
紺綬褒章	一時又は累計で、500万円以上のご協力をいただいた個人、1,000万円以上のご協力をいただいた法人等



厚生労働大臣感謝状



紺綬褒章

遺贈・相続財産等のご寄付

近年、「自分が亡くなった後、これまでに築いた財産の一部を赤十字に寄付したい」、また、大切な方を亡くされたご遺族から「故人の遺産を社会のために役立ててほしい」といった尊いお申し出が増えています。お申し出をされる方々の事情は様々ですが、ご自身や故人の意思を社会のために役立てることを目的に、安心できる方法で信用できる団体に寄付したいという思いは共通しています。

日本赤十字社では、「遺言によるご寄付（遺贈）」「相続財産のご寄付」「ご香典のご寄付」などの相談窓口を設置し、このような尊いご意思にお応えしています。

詳細を記した右記のパンフレットを用意していますので、お問い合わせください。

日本赤十字社へのご寄付には相続税がかかりません。

